

目指す学校像	●学習意欲にあふれる学校 ●豊かな心・健やかな体の学校 ●あいさつのあふれる学校 ●地域とともにある学校
--------	--

重点目標	1 ICT機器を活用した授業実践と学力の向上、主権者教育の充実 2 安心・安全な学校に向けた生徒指導・教育相談及び学校行事の充実、自己肯定感の向上 3 コミュニティ・スクール開設にともなう活動の充実 4 教職員一人ひとりの指導力を向上させる校内研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月13日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○生徒一人一台のタブレットPCが配付されるとともに普通教室にもプロジェクタが配置され、それらを活用した授業実践が推進されている。 ○研究の1年目を終え、主権者教育に紐づく生徒向けの講演会や、教員向けの研修会を開催した。 【課題】 ○タブレットPCは活用されているが、より効果的な活用方法については研究が必要である。生徒の「深い学び」を実現するため、資料提示や情報共有のみならず、思考の深化を実現するための効果的な活用方法を追求したい。 ○研究の2年目を迎え、中心となる教科を設定するとともに、各教科において「主権者教育」と関連付けることを明確化し、生徒の主権者に対する意識の向上を図ることが求められる。	・スタディ・サブリ等を活用した基礎学力の目指した授業実践 ・タブレットPCを活用した授業実践 ・主権者教育を推進し、将来を意識した学習への意識の醸成	①授業の中で、スタディ・サブリを活用し、基礎的な問題を解くドリル学習に取り組みせるとともに、家庭学習においては、授業動画を確認させることで学習内容の定着を図る。 ②タブレットPCを活用した授業を推進し、映像資料等を有効的に活用するとともに、意見交流を活性化させることで対話的な学びの実現を目指す。	①学校評価の生徒アンケートにおける「進んで学習に取り組んでいますか。」「授業をわかりやすいと感じていますか。」等における肯定的な回答が80%以上とすることができたか。 ②「よい授業」因子④の各項目における平均回答の肯定的な回答が80%以上とすることができたか。	①学校評価の生徒アンケート「進んで学習に取り組んでいますか。」の肯定的回答が69.8%、「授業をわかりやすいと感じていますか。」の肯定的回答が90.7%、「放課後の時間、計画的に家庭学習に取り組んでいますか。」の肯定的回答が58.1%となった。 ②「よい授業」因子④の校内平均ポイントが15.6であり、20.0が最大であるため、78%の肯定的回答と考えられる結果となった。	B	①学習内容の定着が不十分であり、やはり家庭学習での授業内容の振り返りが重要であると考えられる。スタディ・サブリ等を活用した計画的な学習の充実を図りたい。 ②「よい授業」因子④の児童生徒の活動をより充実させ、知識・技能をより高いレベルで定着させるため、獲得した知識・技能を活用させる場を学校全体として増やしていきたい。	●タブレットPCの利活用により授業内容の振り返りが可能となれば基礎学力の向上が期待できると考える。 ●計画的な家庭学習の解決のため、「テスト計画実行表」を活用することはどうか。計画立案の好事例を共有することはどうか。 ●激動の社会ではより知識よりも考え方や広い視野が大事であり、中学校での学びはそこに結び付く旨の話をしてはどうか。 ●ICT機器の活用は求められるが、本などの活字離れを心配することや、夢を抱かせるような講演会を実施するなどしていきたい。
2	【現状】 ○自己肯定感の低い生徒もおり、「心と生活のアンケート」において、面談を要する生徒が各クラスにおいている現状がある。また、学校内のみでの対応でなく、外部機関との連携が求められるケースも発生している。 ○コロナ禍において、多くの学校行事が縮小され、生徒の活躍の場が制限されている。 【課題】 ○生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全な生活環境を保つことが求められる。 ○事案発生後の対応だけでなく、より積極的な生徒指導を推進していく必要がある。道徳科の授業や特別活動を充実させ、生徒の自己肯定感を高めていきたい。 ○生徒が活躍する学校行事を実践し、生徒の自己肯定感を高めていきたい。	・校内の教育相談体制の充実 ・コロナ禍に対応した学校行事の実践	①校内における生徒指導部及び教育相談部会で、生徒に関する情報共有と対応方針を検討・実践し、個の実態に応じた指導の実践に努める。 ②「心と生活のアンケート」や随時実施する教員と生徒との2者面談等によって、個の実態の把握とその実態に応じた問題解決に努める。	①「心と生活のアンケート」における要面談生徒の数を、第1回目より第3回目を比較し、減少させることができたか。	①「心と生活のアンケート」における設問3において要面談となった生徒数は、第1回が16名、第3回が15名となった。人数に大きな変化がなく、その対象となる生徒も大幅な変化がなく、特定生徒が要面談となる傾向にあった。	B	①今回、学校評価生徒アンケート「様々な体験的学習は、あなたの成長にプラスになったと思いますか。」がコロナ過のため、実施することができなかったため、次年度は調査していきたい。また、本校生徒は生徒会・委員会活動、係等の活動にしっかりと取り組んでいることがわかる。	●改善策による組織としての対応充実により要面談生徒数減少効果が期待できると考える。 ●生徒会や委員会等などが成長のプラスになっており、充実感を与えているようで素晴らしい。 ●コロナの関係でここ三年間、学校行事等も思うように実施できなかったように思う。来年度は、実施してほしい。 ●登下校時の安心・安全にも目を向ける必要がある。PTAや防犯ボランティア等と連携し、危険個所の点検をする必要があると思う。
3	【現状】 ○昨年度までの学校評議委員会において、学校運営方針や学校評価の結果を決定・共有し、地域の意見を取り入れながらの学校運営に努めた。 【課題】 ○今年度から始まる学校運営協議会において、地域の意見を取り入れながら、学校運営に努めていきたい。 ○地域と学校が連携し、取り組むことができるものがないか、学校運営協議会において模索していきたい。	・生徒が毎日の学校生活を楽しんでいること、笑顔とあいさつのあふれる学校の実現 ・学校と地域が連携した取組の実現	①校内における生徒指導部及び教育相談部会で、生徒同士の人間関係が良好になるよう、実態把握及び指導に努める。 ②教員と生徒会役員及び生活委員会が協働し、朝のあいさつ運動を行うことなどを通じ、あいさつのあふれる学校の実現を目指す。	①学校評価の生徒アンケートにおける「学校生活を楽しんでいると感じていますか。」「しっかりとしたあいさつをしていますか。」等への肯定的な回答が80%以上とすることができたか。	①学校評価の生徒アンケート「学校生活を楽しんでいると感じていますか。」の肯定的回答が93.4%、「しっかりとしたあいさつをしていますか。」の肯定的回答が91.9%となった。	A	①本校生徒は大半が学校生活を楽しんでいると感じていますか。」「しっかりとしたあいさつをしていますか。」の肯定的回答が91.9%となった。	●中学生がボランティア活動に参加することは「他者貢献」を経験できる貴重な機会だと思えます。最初は悩みながらも自分なりに工夫し、得られたものが大きいことを実感した。 ●地域イベントに積極的に参加しており、地域の信頼を得ていると思う。 ●学校を前向きに捉えている生徒の姿は、先生方の努力の賜物と感じた。
4	【現状】 ○研修主任を中心として、タブレットPCの活用方法、道徳教育、教育相談などに関する校内研修に取り組んだ。 【課題】 ○職員ICT活用のスキルには差があり、相互に関わり合いながら、全体のスキルアップが求められる。 ○タブレットPCを活用することによって、より効率的に情報交換や授業実践に取り組み、勤務時間の削減につなげていくことが求められる。	・全ての教員の指導力を向上させ、その力を発揮できる学校の実現	①主権者教育及び道徳教育に関する校内研修を実施し、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育成するための授業実践を目指す。 ②タブレットPCの活用方法に関する校内研修を実施し、具体的な活用方法の情報共有を行う。	①各教科において、主権者教育推進のポイントを含めた授業実践を行い、研究発表時に作成する研究紀要にまとめる。 ②「よい授業」の因子③、「先生がパソコンやテレビなどを活用して教えてくれる」の肯定的な回答が80%以上とすることができたか。	①11月25日にさいたま市教育委員会委嘱「主権者教育」研究発表会を開催し、その成果を発表することができた。研究内容等を紀要にまとめ、学校全体としても研究成果を振り返り、今後に生かすための一冊とすることができた。また、さいたま市立学校にも研究紀要を送付し、その成果を広めることができた。 ②「よい授業」の因子③、「先生がパソコンやテレビなどを活用して教えてくれる」の校内平均ポイントが3.2であり、4.0が最大であるため、80%の肯定的回答と考えられる結果となった。	B	①「主権者教育」の研究を通じて、生徒に将来と現在の学習の接続を少なからず意識させることができた。今後は、さらなる学力の向上を目指していきたい。 ②タブレットPCを活用しての授業改善はまだ改善の余地があるため、より効果的な活用事例の共有と校内における実践を積み重ねていきたい。	●外部講師を招聘してのICT研修を実施してはどうか。保護者には得意とする人もおり、地域交流を含め、専門家に協力を得ることも大事だと思う。 ●働き方改革で、時間を短縮されるなか、様々な取組をしていただき、ありがとうございました。 ●主権者教育は生徒の将来に大いに役立つと思う。年を重ねるごと、重要性を忘れてしまうため、継続をしていただきたい。